

令和4年度

# 静岡県保育連合会総会 並びに所長研修会

## 開催

期日 令和四年四月二十六日  
会場 静岡市民文化会館

令和四年四月二十六日に静岡市民文化会館において「令和四年度静岡県保育連合会総会並びに所長研修会」は、静岡県健康福祉部少子化対策担当理事瀬寄浩二様、静岡県社会福祉協議会常務理事高橋邦典様、静岡県健康福祉部こども未来局こども未来課長鈴木安由美様を来賓としてお迎えし、開催されました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、座席は十分に間隔をとり、加入園六百五十二団体中五百二十四人の出席（委任状出席二百七十六人）により開催されました。

静岡県保育連合会総会では、静岡市一番町保育園の海野美代子副会長が司会を務められ、土山雅之会長、来賓挨拶の後、静岡市城北保育園長松田剛氏を議長に、浜松市立可美保育園長池内結子氏を副議長に選出し、総会議事が進行されました。土山会長から、来年度の静岡県保育連合会の一般社



だき、ご意見を頂戴したい、と挨拶がありました。その後、講師に

学校法人静岡豊田学園静岡豊田幼稚園の宮下友美恵園長先生をお招きし、「子どもの学びをつなぐ幼保小マで所長研修会が行われました。幼保小の接続は、半数以上が行



団法人化を目指しているが、基本的には現状の体制を維持し、事業、活動内容も現状を踏襲しながら拡充していく予定であり、十二月に臨時総会を予定しているのでは、是非出席してほしいと挨拶がありました。



解されてしまっており、連携の手がかりとして十分に機能していない場合もあると教えていただきました。

今後の目指す方向性は、幼児教育の質に関する認識を共有することや地域における園の役割と専門機関との連携であり、全ての子どもへのウェルビーイングを高めるカリキュラムの実現が大切になっていくと学びました。文部科学省が令和四年三月三十一日に示された「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き」を参考にし、各市町や学校単位で、地域に合わせ、全ての子どもたちにとって有益な幼保小の連携を目指していきたいと感じた施設長研修でした。

事の交流にとどまってしまうっており、幼保小の架け橋プログラムの編成・実践には至っていないことがほとんどであることや、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達目標と誤